

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷二第

論說

● 雜種稅ノ分析及其整理

● 奢侈ト貧困

● てがらるるひゆゝの經濟學說三

研究

● 不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

● 保險ト偶然性

● 本多利明ノ經濟說三

雜錄

● 英國經濟政策ノ變轉期

● 貧民ノ體力ニ就イテ

● 英國ノ戰爭利得稅

● 本邦私出產ノ死産

● 歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

● 郷土ノ經濟的研究

● 所有權ノ起源

● 紙幣ノ下落

● 經濟學讀書會記事

● 富田博士ヲ悼ム

法學博士 神戶 正雄

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

山口高等商業學校教授 作田 莊一

法學士 小島 昌太郎

講師 本庄 榮治郎

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學博士 小川 郷太郎

教授 財部 靜治

助教授 山本 美越乃

法學博士 神戶 正雄

講師 本庄 榮治郎

法學博士 河上 肇

講師 高田 保馬

法學博士 織田 萬

所有權ノ起源

講師 本庄榮治郎

頃日れういんすきー氏ノ『所有權ノ起源及ヒ村落共產體ノ形成』ヲ讀ムニ、兵ハめいん氏及ヒらぶれー氏等ノ唱ヘシ、個人所有權ハ共有權ヨリ發達ストノ説ニ、正反對セル頗ル注意スヘキ

1) Jan St. Lewinski,
Village Communi

―新説ヲ唱ヘタリ。勿テ今所有權ノ起源ニ關スル部分ニツキソノ概要ヲ紹介セント欲ス。

所有權トハ何ソヤ。曰クアル目的物ヲ排他的ニ使用シ、又ハ處分スル權利ヲ以テ、亘久ニ所持スルコトヲイフ也。故ニ單ニ使用シ又ハ排他的ナルノミニテハ、所有權ヲ構成セス。ソレ以上、更ニ亘久のニシテ、且處分權ヲ、具備スルコトヲ要ス。土地ハ必スシモ常ニ所有權ノ目的トナリシニハアラス。純然タル遊放人民及ヒ狩獵人民間ニ於テハ、ソノ始メニハ土地所有ノ觀念ナカリキ。蓋是レ一般自由物カ所有權ノ目的トナラサルト同シク、當時ニ於テハ土地ハ彼等ノ欲望ニ對シテハ、頗ル豐富ニ存在シ、彼等ハソノ欲スル所ノ土地ヲ、欲スルタケ、何時ニテモ自由ニ使用スルコトヲ得タレハ也。然ラハ所有權ハ如何ニシテ起リシカ。凡ソ人ガ或物ヲ專有セントスルニ至ルハ、ソノ物ヲ失ヒシ場合ニハ再ヒ之ヲ得ル能ハサルカ、又ハアル努力ヲナスニ非レハ再ヒ獲得シ能ハサルカ如キ物、換言スレハ稀少ナル物、又ハ吾人ノ勞力ノ生産物ニ對シテ、始メ

テ生スル所ノ現象也。斯クテ物ヲ專有セントスル欲望ハタダ勞力ト稀少トノ二原因ヨリ發生ス。而シテコノ願望ニシテ他人ノ利害ト衝突セサル場合ニ於テ、始メテ社會的制度トシテノ所有權ヲ構成スヘシ。故ニソノ專有セントスル目的物ニシテ吾人ノ勞力ノ結果ニヨリテ生産セラレタルモノナルカ、又ハ個人的稀少性 (individual scarcity) ヲ有スル場合ニ於テハ、敢テ他人ノ利害ト衝突スルコトナカル可シト雖、反之、社會的稀少性 (social scarcity) ヲ有スル場合ニハ、衝突ヲ生セサルヲ得サル可ク、個人ノ專有ヲ認ムルニ至ラサル也。以下勞力ト稀少性トノ二條件ニツキテ所有權發生ノ所以ヲ説カン。

(一) 勞力。勞力單位カ個人又ハ家族ナルトキハ所有權ハ個人的ノモノナルヘク、勞力單位カ集合團體ナルトキハ共有權ヲ發生スルモノ也。

(甲) 單獨勞力。(イ) 草地ハ當初何人モ自由ニ之ヲ使用シ得タルモ、人口稠密トナルニ及ヒ、圍障、施肥、排水、開拓等ノ勞力加ヘラレ、茲ニ個人所有權ヲ發生セリ。ぶりあーつ・あるたい土民族ニ

ソノ例アリ。而モ自然ノ儘ナル草地カ自由地 (nobody's land) トシテ存シタルコトハ、如何ニ勞力ト所有權トカ密接ナル關係ヲ有スルカヲ示ス好例證トイフ可シ。(ロ)森林ニツイテハソノ土地ニ勞力ヲ加フルハ例外ニ屬スト雖、しべりあ農夫ガ森林ノ燒失ヲ防クタメ必要ナル注意ヲ怠ラサリシトキハ、ソノ部分ノ森林ヲ專有スルノ權ヲ得タリ。(ハ)屋敷地ハ之ヲ設定シタルモノノ世襲財産ニ屬ス。(ニ)耕地所有權ノ形成ハ頗ル複雑也。蓋、上述ノモノハ地力ヲ減殺セスト雖、耕地ハ勞働ニヨリ地力ヲ盡シソノ生産力ヲ減スルノミナラス、耕耘時種等ノ勞働ハ年々之ヲ繰返サザル可ラス。是レ上述ノ勞働カ大體所謂資本ノ投下タル性質ヲ有シ、一度排水、開拓、建築等ヲナサバ相當長期間同一勞働ヲ繰返スノ要ナク、從ツテ同一地ヲ保有セントスルニ反シ、耕作者ハ耕耘收穫ニヨリ地力ノ消盡セル土地ヲ捨テテ忽チ他ノ新シキ土地ヲ耕作スルニ至リ從テ耕地ニ於テハ他地ト異リ、一時的占有ノ一時期ヲ生セシ所以也。コノ移動的耕作、一時的占有ハ

農業ノ初期ニ於テハ世界一般ニ廣ク行ハレタル所也。ろしや、印度、じやが其他一一之ヲ擧ケス。(たしたす時代ノける)而モ此等ハ一時的占有ニシテ所有權ニハアラス。然ルニ人口ノ増加ト共ニ次第二粗放的ヨリ進ミテ周約的トナリ、多大ノ勞力ヲ費シテ森林ヲ開拓シ休耕地モ絶エズ之ヲ耕作スルニ至リ、耕作者ノ土地ニ對スル關係ハ次第二永續的ノモノトナリ、數年間同一地ヲ耕作スルニ至ル。農業ノ尙一層周約的トナルニ從ヒ、一時的占有ハ亘久的所有權タル性質ヲ帶フルニ至レリ。移動的耕作ノ行ハレサルニ及ンデコノ現象ヲ生スルコト常ナルガ、ソハ勞力關係ヨリモ、寧ロ後ニ述フル個人的稀少性ニ基クコト少カラス。タダ森林開拓等多大ノ勞費ヲ要スル場合ニハ、ソノ地ヲ永久保持スルノ權ヲ生スルコトアリ。(露國農民、ふいん人、ぶりあーつ人、じやがわ人、東北あふりか土民等ニソノ例ヲ見ル)之ヲ要スルニ草地、森林、屋敷地ニ關シテハ個人所有權ハ直接ニ發生スルモ、耕地ニ於テハ特ニソノ間ニ一時的占有ナル一階段ヲ介在セルモノトス。

(乙)共同勞力。若シ共働ナルモノガ、耕作者ノ勞働ノ一部分ニ就テノミ行ハルルトキハ、ソノ所有權ハ依然個人的ノモノ也。例ヘハざるゞ一ノ族ニテハ灌溉ヲ共同ニナスモ耕地ハ依然個人ノ世襲的財産ニシテ自由ニ之ヲ處分スルヲ得タリ。タダ賣却ノ場合ニハ同一團體内ノ者ニ賣拂フノ制限アリシノミ。又同民族中ニハ共同耕作ノコト行ハレ、數人ノ農夫ハ鋤ヲ購フタメ資金ヲ提供シ、半ヲ共同ニ使用スルモ、他ノ勞働ハ各別ニ之ヲ行ヒ鋤耕終レハ、共同關係ハ消滅ス。又森林ヲ開拓スルタメニ共働スルノ必要アルコトハ所有權ノ最初ノ形式カ共同的ノモノタラサル可ラサルコトヲ説明スルモノトシテ屢引用セラレタリト雖、余ハ大ナル團體ガ共同ニ開拓ヲナシタル例ヲ見出サザル也。ラぶれ一氏ガじやがあニ於ケル共同開拓トイヘルモノハ、實ハ三四家族團體ノ相互補助ニ過キス。各人ハ各自己ノ土地ヲ耕作スルモノニシテ何等村落共產制ノ佛ヲ認メス。じやがあニ於テモ個人所有權ハ依然、所有ノ最初ノ形式ナリ。タダ歐露ニ於テハ共同

開拓ノ行ハレタル唯一團體アリト雖、モトヨリ例外ナリ。共同所有權ハスベテノ勞働若クハソノ大部分カ共同ニ行ハルル場合ニ生ス。例ヘハ圍障セラレタル草地ニ於テハ垣ヲ作ルコト即チ全勞働也。ふりあ一ツ、あるたい民族中ニハ團體ニテ圍障ヲナシ、刈取セシ牧草ヲ團體員ニ分配スルノ制行ハレタリ。耕地ニツイテハ耕耘蒔種等スヘテノ勞働ヲ共同ニ行フコトハ極メテ稀ナル現象ナリ。ざるゞ一ノ族中ニハ四五ノ家族團體カ土地ヲ所有シ生産物ヲ分配セリ。而モコノ團體ハ今日イフ所ノ共同組合ト同様ノ自由の結合體ニシテ、決シテ村落共產制ニ非ス。思フニ村落共產體ハ共同耕作ノ一般ニ行ハレサリシ地方(獨)ニ存在シ、又村落共產體ノ形跡ナキ地方(獨)ニ於テ共同耕作ノ屢行ハレタルハ事實ナリ。故ニシーぼうむ氏ノ所謂 eight-oxen team ノ如キハ單ニ英蘭及ヒラゑるすニ於ケル特殊ノ制度ヲ説明スルニ止マリ、一般ニ村落共產體ソノモノニ根據ヲ與フルモノニアラス。之ヲ要スルニ所有權ナキ時代ヨリ進ンテ、土地ニ勞力

ヲ加フルコトニヨリテ個人所有權ヲ生スルモノニシテ、例外的場合ニ於テノミ自由組合團體カ土地ヲ所有スルニ至ルモノ也。

(二)稀少性。(甲)個人の稀少性。經濟生活ノ周約トナルニ從ヒ、人々ハ土地ニ固着シ、從テソノ住家ニ近キ周圍ノ土地ハ彼等ニトリテ特殊ノ價值ヲ有スルモノトナレリ。遊牧人民ハ何時ニテモソノ住居ヲ轉シテ土地ヲ求メ得ヘキモ、永久の家屋ヲ有シ、農地ニ於テ種々ノ勞働ニ從事セサル可ラサル農夫ハ、容易ニソノ土地ヲ轉スルコトヲ得ス、耕地ノ遠キハ不便ト不利トヲ伴フコト大也。各人未タ村落ヲ形成セスシテ各地ニ散居セル處ニテハ耕作者ハ自家附近ノ地ヲ豐富ニ專有シ得ヘシ。故ニ散居制ノ存スル地方ニテハ土地ニ何等勞力ヲ加ヘサル場合ト雖、個人所有權ヲ發生ス。是レソノ土地カ個人の稀少ナルニヨル。蓋社會的觀點ヨリスレハ、土地ハ饒多也、然レトモ耕作者ノ近隣ニ於ケル土地ハ稀少ニシテ、地質同一ナルモ距離遠ケレハソレタケ土地ハ劣等視セラレハ也。しべりあニ於テハ散居耕作

制一般ニ行ハレタルヲ見ル。コノ制度ハ原始農業時代ニ於ケル一特色ナルカノ如ク、又土地ノ豐富ナル間ハ最モ便宜ナルモノニ相違ナシ。蓋村落制ニ於テハ住民ハ、田地、牧草地等ノ一部ハ遠隔ノ地ニ有セサルヲ得サルモ、散居制ニ於テハコレ等ノ土地ハ住宅ノ附近ニ存スレハ也。散居制ハ歐露ニテハ村落制以前ニ行ハレ、ける人古けるまん人ノ間ニモ盛行ハレタリ。而シテ土地ニ對シテ勞力ヲ加フルコト大ナレハ大ナル程、距離ノ近キヲ利トス。カクノ如キ個人の稀少性ニヨリ耕地ニ於テハ一定ノ土地ニ對シテ益勞力ヲ加フルコトトナリ、一時的占有ヲシテ且久的ノモノタラシメシ也。カクテ所有權ハ共同團體ニ存セスシテ個人ノ手ニ在ルコト明カ也。(乙)社會的稀少性。然レトモスヘテノ土地カコノ個人所有ノ階段ヲ經過シタルニ非ス。草刈地、森林、牧地等ニシテ勞力ヲ加ヘラレス且散居の耕作者ノ間ニ介在セルモノハ絕對的自由使用ヨリ直接ニ他ノ異レル制度ニ進メリ。コレ等各耕地間ニ介在セル土地ハソノ團體ノ各人ニ對シ同一

價値ヲ有セリ、若シコレ等ノ地カ豐富ナラサルニ至レハ(人口ノ増加ニヨル)ソノ稀少ハ個人ノミナラス全團體ノ感スル所トナル。是レ即チ社會的稀少也。コノ場合ニ若シ各人ノ自由專有權ヲ認ムルトキハ他人ノ利害ニ衝突ヲ生スベシ、故ニ共同團體ハ之ニ對シテ利害衝突ヲ防止スルタメノ規定ヲ設ク。即チ或ハ個人ノ專有ヲ禁シ、又ハ定時分割ノ方法ニヨリテ各人ニ使用セシメ、或ハ豊年ニハ草地ヲ自由ニ使用セシメ、凶年ニハ分割使用トナスカ如キ、或ハ各人カ飼養シ得ル家畜數ヲ制限スルカ如キ是レ也。然レトモコレ等ノ土地ヨリモ一層重要ナルモノハ勞力ノ加ヘラレタル土地又ハ耕作者附近ノ土地ニシテ、コレ等ハ前述ノ如ク先ツ個人所有權ヲ發生セル也。

村落共產體ヨリモ個人所有權ガ以前ニ存セシコトハしべりあニ於テ之ヲ見ルノミナラズ、他國ニモソノ例アリ、古けるまん法制ニテモ個人所有權ノ存在ヲ證明セル圍障ノコトヲ規定セリ。歐露ニテハ共產體ハ十六七世紀以後個人所有權ヨリ發達シ、印度ニ於テモ個人所有權ヲ規

定セルモノアドルじや々あニテハ人口稀薄ナル地方ハ個人世襲所有權一般ニ行ハレ、人口稠密ナル地方ニノミ村落共產體ハ比較的最近ニ至リテ行ハレタリ。尙希臘ニテハほーまあノ詩、古代宗教上ノ儀式、及古代法制等ニ於テ個人所有權ノ存在ヲ知り得ヘキモノアリ、へぶりゆう民族中ニ於テモ文化發達ノ以前ニハ個人所有權存在シタリキ。現今棲息セル最原始の人類ハ何レモ土地ニツイテ共有權ヲ存スルモノナク、村落共產制ハソレヨリモ一層進化シタル社會ニ於テ發見セララルヲ常トス。

要スルニ所有權ノ發生ハ勞力ト稀少トノ二條件ニアリ。而モ個人所有權ノ先ツ發生シタルモノナル事ハ以上説ク所ニヨリテ明カナル可シ。